

レジメン名称(mFOLFOX6 + アービタックス q2w) 大腸癌

ID _____ 患者氏名 _____ 様 (性別 _____)

身長 _____ cm 体重 _____ kg 年齢 _____ 歳 体表面積 _____ m²

薬剤	投与量	投与日
		1 コース 2 週間 Day 1.....8.....15 (=Day1)
アービタックス	初回 400 mg/m ² 、 2 回目以降 250 mg/m ²	↓ ↓
オキサリプラチン	85 mg/m ²	↓
レボホリナート	200 mg/m ²	↓
フルオロウラシル bolus	400 mg/m ²	↓
フルオロウラシル 持続	2400 mg/m ²	↓ 1 日目から 46 時間持続投与

レジメンオーダー以外に必要な処方

皮膚障害予防：ヘパリン類似物質油性クリーム 0.3%（ヒルドイドソフト） 2 本 1 日数回

血清 Mg 測定（3 ヶ月に 1 回以上）

必要時（制吐剤予防投与）：day2～：デキサメタゾン（デカドロン）4～8mg 1×朝 2 日間 内服

注意事項

オキサリプラチンとレボホリナートは同時投与です。

アービタックス：インフージョンリアクション（気管支痙攣、蕁麻疹、低血圧、意識消失、ショックなど）に注意。

1 回目：投与時に心電図モニター、BP、HR などの確認の必要あり（詳細は投与方法の項を参照）

投与方法：1 日目～		
1	生食 100mL ケモセーフロックの点滴セットを使用 メインルートにつなぎ、プライミング 点滴筒（チェンバー）を 3/4 程度満たし、メインルートを止める	
2	ボララミン注 1A、ファモチジン(20mg/20mL) 1A、ゆっくり、下の側管から投与	
3	グラニセトロン 3mg/100mL、デキサート(3.3mg/1.0mL) 2A 30 分かけて点滴、下の側管から投与	
4	<u>アービタックス</u> _____ mg, 生食（初回 500mL, 2 回目以降 250mL） 初回 120 分、初回問題なければ 2 回目以降 60 分かけて点滴、下の側管から投与 <u>初回のみ下記を実施</u> <u>心電図モニター</u> <u>投与前、5 分後、15 分後、30 分後、終了時後：BP、HR 測定</u> <u>投与前、5 分後、15 分後、30 分後、終了時後：全身状態の確認（呼吸苦、悪寒、発疹、掻痒感、気分不良、嘔気）</u>	
5	生食 100mL、ゆっくり 下の側管から投与 経過観察 初回 60 分、2 回目 30 分、3 回目以降 15 分間	
6	<u>レボホリナート</u> _____ mg, 5%ブドウ糖 500mL (必ず 5%ブドウ糖で) 120 分かけて点滴、下の側管から投与 <u>オキサリプラチンと同時に開始</u>	<u>オキサリプラチン</u> _____ mg, 5%ブドウ糖 250mL (必ず 5%ブドウ糖で) 120 分かけて点滴、ケモセーフロックのルートから投与 <u>レボホリナートと同時に開始</u>
7	<u>フルオロウラシル</u> _____ mg, 生食 40mL、全開で投与、ケモセーフロックのルートから投与	
8	1 の生食を使用し、ウォッシュアウト、ゆっくり、適宜途中終了可、残は破棄	
9	<u>フルオロウラシル</u> _____ mg, 生食、全量 210mL 5 mL/時、46 時間かけて ケモセーフセットを外して、インフューザーポンプにて投与	

投与方法：8日目	
1	(ケモセーフ不要) 生食 100mL メインルート用
2	ボララミン注 1A、ファモチジン(20mg/20mL) 1A、ゆっくり、側管から投与
3	生食 100mL、デキサート(3.3mg/1.0mL) 2A 30 分かけて点滴 メインルートから投与
4	<u>アービタックス</u> mg, 生食 (初回 500mL, 2 回目以降 250mL) 初回 120 分、初回問題なければ) 2 回目以降 60 分かけて点滴、メインルートから投与
5	生食 100mL ゆっくり メインルートから投与 経過観察 初回 60 分、2 回目 30 分、3 回目以降 15 分間 残破棄可

出水総合医療センター レジメン管理委員会